

APRW/JASPARC 報告書
RTF(Regional Training Forum) in Asia Pacific



日程：2026.3.27-4.1

開催地：Pune India インド プネ

開催会場：JW Marriott Hotel, Pune JW マリオットホテル プネ

CISV India & CISV Japan

1. 開催概要

● APRW とは

APRW (Asia Pacific Regional Workshop) は、アジア太平洋地域で年に一度開催されるワークショップで、以下の3つが並行して行われる。

- **APAC (Asia Pacific Conference)** : 各国代表が集まる会議
- **プログラム関連トレーニング**
- **JASPARC (Juniors Asia Pacific Regional Conference)** :
16歳以上の若いCISVメンバーが地域の課題について話し合う会議

また、コモンセッション、遠足、ウェルカムパーティー、フェアウェルパーティーなどは全員参加で実施された。

● 日程

2026年3月27日～4月1日

● 開催地・テーマ

- **開催地** : (インド・プネ)
- **テーマ** : 「AMOOLYA IKIGAI」

インドの言葉で「かけがえのない価値」を意味する Amoolya と、日本語の「生きがい」を組み合わせたテーマ。互いの文化や価値観を尊重し、一人ひとりのかけがえのない存在と人生の目的について考え、参加者同士のつながりを深めることを目指した。

● 参加国・参加者数

- **参加国** : 15カ国
- **参加者数** : 119名
- **日本からの参加者** : 17名 (共同開催運営スタッフ4名)
 - APAC : 今西淳子、平洋一、大門樹久世
 - Essentials of Peace Education : 松岡奈保子、深井美貴子、秋吉和代、増谷詩織
 - Risk Management : 矢澤豊、坂田綾、中島貴子
 - TTT : 村尾京香、
 - Village : 野上良治、牧穂乃花、菅原瑞季
 - JASPARC : 、西山世里奈、平井奏衣、古元柚希
 - 共同開催運営スタッフ: 河合真理、神谷佑志、Imanishi Hayato、Imanishi Mook

● 参加費

- APRW 参加者 : US\$500
- JASPARC 参加者 : US\$440

2. 開催ワークショップ

- APAC (アジア太平洋年次会議)
- Essentials of Peace Education
- Chapter Development
- Risk Management
- Train The Trainers (TTT)
- Village Camp
- JASPARC

3. 主なスケジュール

	Friday 2026-03-27	Saturday 2026-03-28	Sunday 2026-03-29	Monday 2026-03-30	Tuesday 2026-03-31	Wednesday 2026-04-01
BREAKFAST		Buffet Breakfast				
7:00 am-9:00am						
8:30am-9:00am		Official Opening				
Plenary Session	ARRIVALS	Parallel Session	Excursion	Parallel Session	Parallel Session	DEPARTURES Check out HOTEL on or before 11:00:00
9:00am-10:30am		1	8:30 - 12:30	9	14	
Coffee Break						
10:30am-10:45am		Coffee Break		Coffee Break		
2nd Plenary Session		Parallel Session		Parallel Session	Parallel Session	
10:45am-12:15pm		2		10	15	
LUNCH		Lunch				
12:15pm-1:30pm		Group Photo		APAC LUNCH		
3rd Plenary Session	2:00 pm onward Check in at Hotel	Parallel Session	Parallel Session	Parallel Session	Parallel Session	
1:30pm-3:00pm		3	6	11	16	
Coffee Break		Coffee Break				
3:00pm-3:15pm						
4th Plenary Session		Parallel Session	Parallel Session	Parallel Session	Parallel Session	
3:15pm-4:45pm		4	7	12	17	
Coffee Break		Coffee Break				
4:45pm-5:00pm						
5th Plenary Session		Parallel Session	Parallel Session	Parallel Session	Parallel Session	
5:00pm-6:30pm		5	8	13	18	
DINNER						
6:30pm-8:00pm	Welcome Party	Dinner			Farewell Party	
6th Plenary Session	at 6:30 PM	PACE Grants 2026	Market Place	Common Session 2		at 7:00 PM
8:00pm-9:30pm		Common Session 1				
SOCIALS			Socials	Socials	Trainers Feedback	
9:30pm-11:00pm				Socials	APRW 2027	

4. 各ワークショップ内容と参加者の感想

4-1. APAC (Asia Pacific Annual Conference)

【内容と報告】

1. 自己報告 (Self Report) について

- ・ 2026 年 1 月下旬、CISV はチャリティーコミッションへ自己報告を実施した。
- ・ 本件は単一の問題ではなく、これまでの課題の蓄積によるものである。
- ・ 特に、2025 年夏のプログラムにおける IRF (Incident Report Form) の内容が、今回の自己報告に直接つながっている。
- ・ 現在、チャリティーコミッションとの連携のもと、暫定的に任命された Emma 氏が CISV の運営に関与し、意思決定を主導している。

→ Emma 氏は「この夏のプログラムを実施できなければ CISV の継続が難しい」という認識を持っており、2026 年夏のプログラム実施に向けて対応が進められている。

2. Safeguarding (セーフガーディング) 15 の条件について

- ・ 各条件自体は従来のガイドラインにも含まれていた内容である。
- ・ 確実な実施を担保するため、今回新たに厳格化された。
- ・ 実際の運用にあたって想定される課題や現場での困難点について、各国・各地域から意見の収集・集約が行われ、本地域としての意見を CISV 国際に報告した。
- ・ アジア地域はフォームの提出率が高く、全体として条件の遵守状況が良好であるとの評価を受けた。

3. その他

(1) システム関連

- ・ myCISV は不具合が多いため、今後新システムへの移行が予定されている。
- ・ IRF の提出方法についても、統一化が図られる予定である。

(2) Safeguarding の適用範囲

- ・ 今回厳格化された Safeguarding 条件は、国際プログラムのみ適用される。
(国内行事には適用されない。)

4. 今後の APRW・JASPARC 開催予定

2027 年：フィリピン (セブ) 日程：3 月 20 日～25 日 (予定)

まとめ

APAC では、CISV の自己報告を背景としたガバナンス・Safeguarding 体制の強化、および今後のプログラム継続に向けた方針が共有された。また、2026 年夏のプログラム実施が組織の継続にとって重要であることが示された。(大門樹久世)

【感想：日本協会・副会長 今西淳子】

=ひさしぶりの APRW =

毎年 APRW の前日に開催される PACE 財団の役員会では、2026 年度に開催するプロジェクトに対する助成金の審査をしました。日本からは NJR が申請した 2027 年 2 月に京都で開催する予定の北東アジア地域の JB 研修 T E A (Teamwork of East Asia) への助成が決定しました。



CISV 国際 75 周年祝賀会を兼ねた開会式では、岩崎統子会長のビデオメッセージを放映した後、CISV Japan の初期に CISV の創設者のドリスアレン博士が来日された時の写真を披露しました。続いて PACE 財団役員の Vicki Tejada さんが CISV の創設者のドリスアレン博士との交流の話を生き生きと話してくれました。



APAC ではほぼ確実と思われるのは、「今年の夏のプログラムもキャンセルしたら、CISV はなくなるだろうと言う認識」で、逆に言えば、本年の夏のプログラムはなくならないだろうと思います。でもそれは何の解決にもならないので、長期的な視野も必要です。今回の APAC では、短期的な対策は CISV Thailand の Oil 会長が、長期的な対策は CISV Japan の

法律担当理事の矢澤さんが発表しました。特に前者について APAC に参加していた各国の国際理事たちがよくまとまってアジア太平洋地域の提案を出すことができました。これからヨーロッパとアメリカで地域会議があるので、どのように展開するか注目しています。

私としては久しぶりに全日程参加することができ、CISV 国際の現場に戻った感じで楽しかったです。

【感想：国際理事 大門樹久世】

今回の会議に参加して、アジア・パシフィック地域のつながりの強さと、対面で顔を合わせることの大切さを改めて感じました。これまで何度も顔を合わせているメンバーが多いため、意思疎通がしやすく、お互いに協力しようという雰囲気が自然にできていました。毎年このように直接会う機会があることは大きな意義があると思います。

今回は国際から突然厳しい条件が示された中での開催でした。それぞれに思うところはあったと思いますが、この会議では、夏のプログラムを実施するという共通の目的に向かって、各国が冷静かつ前向きに話し合いをしていたことがとても印象的でした。また、各国の強みや提供できること、課題や支援してほしいことなどを共有しました。そして会議の中で、課題を持つ国と、それを補えるような強みを持つ国がグループを作り、具体的な計画を考える時間がありました。



日本はプログラムの開催経験が豊富な点は強みですが、セミナーキャンプの実施には積極的ではありませんでした。プログラム開催経験の少ないニュージーランド、セミナーキャンプ開催経験豊富なインドネシア、プログラム経験は豊富だが、セミナーキャンプの開催経験の少ない日本の3カ国で、セミナーキャンプの共同開催の可能性について話し合いをしました。



この場で話し合った内容は、あくまで仮の計画・アイデアの段階ではありますが、こうした議論から生まれた小さな芽が、今後実際の取り組みとして形になっていけばとても素晴らしいと感じています。

APRW および JASPARC への参加を促すために日本協会から各支部最大5名への補助制度が今年度から実施されましたが、最大人数に満たない支部もありました。今後はこの制度を使って各支部からより多くの方に参加してもらいたいと思っています。

【感想：関東支部 平 洋一】

国際平和の実現には相互理解が欠かせない。いろいろな国の人々を理解するには、面と向かって話すことが重要であるが、実際にそれぞれの国に行ってみないとわからないことも多い。

今年の APRW はインドと日本の共同開催で開催地はインドの Pune という都市での開催となった。会場に着くまでは、ちょっと心配であったが、それなりに苦労して、何とかたどり着いた先は、立派なホテル。そこでは、きわめて快適に過ごすことができた。やはり、その国のことは行ってみないとわからない。なお、ホテルの内と外ではかなり違いあるのは、日本とは全く異なっている。

私は APAC（主に各国の代表たちが今後の計画や、現在や将来の課題について話し合う会議）に参加した。その内容は別途報告されているので、対面で会議に参加することの意義について考えてみることにする。



各国からの参加者の話を聞き、こちらの考えを伝えるといったことは、最近ではネットを使って行うことも多い。しかしながら、実際に顔を見ながら話さなければわからないことも多いし、それぞれの真摯さもよくわかる。また、たまに顔をあわせていれば、ネットの会議もより実り多いものになることは必定である。

APRW も終わりがけのころ、近くの有名なヒンズー教の寺院にお参りした。インドの人たちは何を言っているかわからないことも多いが、総じて親切で優しい。自動車の通行量はすさまじいものがあったが、事故は相対的に少ないとのこと、これは、争いや人を傷つけることを嫌うヒンズー教の教えによったものという話をきいた。

とにかく、改めていろいろな国の人たちと仲良く過ごしていたら7泊8日のインド滞在はあっという間に終わってしまった。

4-2. Essentials of Peace Education & Chapter Development

【内容と報告】

今回 Chapter Development と Essential Peace Education の合同研修に参加しました。

会場はホテルの会議室で、席はコの字型に配置されていました。インド、モンゴル、インドネシア、フィリピン、ベトナム、オランダ、日本など多様な国から集まった CISVer たちと、4 日間にわたり Learning by doing 形式で意見を交わしました。

英語力に不安はありましたが、周囲のメンバーが常にサポートしてくれたおかげで、楽しく充実した研修となりました。

初日は、隣の参加者とペアで自己紹介を行い、名前に関連した絵を描いてネームマットを作成しました。このマットを毎日異なる席に置いて座ることで、自然と多くのメンバーと交流し、距離を縮めることができました。

各セッションの前にはエナジャイザーが行われ、場の雰囲気や和らげていました。日本人同士だとやや照れを感じることもありますが、国際色豊かなメンバーの中では純粋に楽しむことができ、エナジャイザーの重要性を実感しました。

特に印象に残ったのは、「最初に感じる恐れ」と向き合うプロセスです。最初に「恐れ」を書き出し、それをすぐに解決しようとするのではなく、「自分はこう感じているんだ」と一度客観的に捉えることを大切にしていました。この姿勢は多くのセッションに共通しており、重要な学びとなりました。

また、「体験を通して学ぶ」という点も強く印象に残りました。講義形式ではなく、参加者同士でアート作品や寸劇を作るなどの活動を通して、「平和とは何か」を主体的に考える構成となっていました。このプロセスにより、表面的ではなく本質的な理解に近づくことができました。

今回の研修は CD と EPE の合同で実施され、トレーナーが 4 名体制であった点も特徴的でした。そのため、運営課題よりも「学び」や「内容」に焦点を当てたセッションが多く、アクティビティがどれほど綿密に設計されているかを改めて理解することができました。

全体として、「体験を通して平和を理解する」という CISV の本質を、改めて強く実感する機会となりました。(松岡奈保子)

【感想：関西支部 深井美貴子】

=APRW は参加してみたいくなる学びの場=

今回は、少し久しぶりのワークショップ参加でした。

なぜ EPE にしたのかと、いろいろな方に聞かれましたが、今回はじっくりと落ち着いて学びたいという思いがありました。これまでの経験に加えて、改めて CISV のプログラムの基礎や大切にしている考え方をしっかりと学び直すことで、自分自身の理解を深めたいと考えました。

また、保護者として、そしてリーダー経験者としての視点を持つ中で、その学びを親御さん方や新しい会員の方々に還元できるのではないかと思います。参加を決めました。



2011 年以来何度も APRW には参加していますが、今回は最も信頼できる友人でもあるインドネシアの Novi がメイントレーナーで、さらに他の 3 人のトレーナーもよく知っている仲間だったため、とても安心感のある環境でした。



参加者もさまざまな国から集まっており、それぞれの考え方や経験、視点を持ち寄りながら、アートや寸劇を通して表現していく時間は本当に楽しく、どのセッションも飽きることなく、充実したものでした。

改めて感じたのは、CISV のアプローチが「誰も置いていかない」という姿勢に貫かれていることです。多様性を大切にし、お互いを認め合いながら進めていく。その姿勢は子どもたちだけでなく、大人である私たちにも自然に実践されており、長い歴史の中で培われてきた価値の重みを感じました。

今回も国際公式フォトグラファーとして関わらせていただきましたが、これまでのように動き回るのではなく、少し距離を持って全体を見ることができました。その分、落ち着いて写真を撮ることもでき、また友人の Shivani と一緒にヒンディー語と日本語で希望者の名前を書く活動にも関わることができました。それが PACE Foundation への寄付につながるプロジェクトであったことも含め、とても意味のある経験でした。

大好きなインドに CISV の活動を通して 3 回訪れることができたことも、自分にとって大きな喜びです。毎回感じるのですが、APRW は時間の使い方として非常に価値のあるものだと思います。

英語に不安を感じる方もいるかもしれませんが、会議形式ではなく、ワークショップ形式のため参加しやすく、CISV の「誰も置いていかない」という姿勢の中で安心して関わることができます。不安な方は、ぜひ気軽に相談していただけたらと思います。



【感想：東海支部 松岡奈保子】

今回インドで行われた APRW に参加しました。私としては初めてのプログラムの参加になります。まずは 自己紹介ならぬ、友達の紹介。ペアになった人にたくさん質問をして 紹介するということから始まり、CISV の歴史から 組織の説明がありました。ゲームやファッションショー、各セッションの前には エナジャイザーをしました。一番印象に残っているのは 11 歳と 14 歳がどんなことに Happy, Sad, Angry, Nervous を感じるかと 書き出してみた時です。11 歳と 14 歳がこんなに違うのだと改めて思い知らされました。体感しました。感じていろいろなこ



とが腑に落ちることが多かったです。本当によく考えられているプログラムだと実感しました。各国の話もたくさん聞くことができ ベトナムでは 大人のミニキャンプをすると話していました。今回参加したことでさらに CISV の理解が深まり、キッズがまた参加したい気持ちになるのがよくわかりました。貴重な体験をさせていただきありがとうございます。



【感想：九州支部 増谷詩織】

今回の APRW 参加し、世界中の CISVer と実際に交流できたことは大きな刺激となりました。多様な価値観に触れる中で、CISV の活動がいかに深く考えられているかを実感しました。特に、アクティビティー一つひとつに目的や意図が丁寧に組み込まれている点や、場を和ませるエナジャイザーの重要性は非常に印象的でした。また、安心・安全な環境がしっかりと設計されているからこそ、参加者が心を開き、主体的に学べるのだと感じました。平和学習を learning by doing 形式で行うことで、知識としてではなく体験として理解できる点も大きな学びでした。今回の経験を通して、子どもがビレッジキャンプから「楽しかった!」と帰ってくる理由を、自分自身の体験として実感できたことに喜びを感じています。さらに、日本チームが披露したソーラン節のパフォーマンスからは、強い結束力と一体感を感じ、心を打たれました。今回の学びを、今後の関わりにしっかりと活かしていきたいと思います。



【感想：九州支部 秋吉和代】



今回 APRW に参加させていただき、印象に残ったことは、トレーナーの方々、参加者の皆さんとの交流です。九州支部を超えて、CISV のイベントに参加する事自体が初めてでしたが、貴重な体験となりました。今回は、Essential peace Education に参加しましたが、参加者の中には保護者の方々も多く、自然と分かり合えることが多かったです。

また Chapter Development の参加者の

方々もいたので、CISV に長年関わっている方の話も伺うことができ、実際のキャンプやアクトについても具体的な話を聞くことができました。「体験を通して平和を理解する」それがどんな事なのか、参加者の皆さんと一緒に考えたり、実際に体験してみたりすることができ、楽しみながら学ぶことができました。また Farewell Party に向けて、日本人で集まりダンスの練習をしたり、インドのダンスを習ったりなど、様々な交流の機会もあり、楽しむことができました。今回の経験を今後の CISV での活動にも生かして行きたいと思います。今回 APRW に参加するという貴重な機会をいただき、ありがとうございました。



4-3. Risk Management

【内容】

2026 年 3 月 28 日～31 日に開催された Risk Management ワークショップでは、Stephenie、Carlos、Sandra の 3 名のトレーナーから、CISV における安全管理の基本理念と実務について学んだ。冒頭では、Risk Management で最も重要なこととして「**Select, Train, Support Leaders and Staff**（リーダー・ス

タッフの選考、トレーニング、キャンプ中のサポート)」が強調され、これが安全なプログラム運営の基盤であると説明された。

○ Risk Manager に求められる Attitude / Skills / Knowledge

Attitude（姿勢） 安全を最優先に考え、責任を持って行動する意識が求められる。具体的には、・緊急時にコンタクトをとれる体制を整える・話しやすい環境をつくる・キャンプ中の問題に気付く・子どもとのコンタクトを密にとる・リーダーやスタッフの責任を事前に理解してもらう・Friendship（信頼関係）と Inclusiveness（包括性）を重視する

Knowledge（知識） 現場で適切に対応するための基礎理解として、・CISV の組織構造・Policies（安全のためのルール）と Procedures（手順）・保険制度・IRF（Incident Report Form）の手順と事実確認・Requirements（活動に必要な事前条件）・役割理解 が挙げられた。

Skills（技能） 実際の現場で必要となる実践力として、・リスクマネジメントの技能・Conflict Management（対立解決）の技能・優先順位づけの実践的アプローチが求められる。

○ CISV Mission と Values

Mission *CISV educates and inspires action for a more just and peaceful world.*

Values（RM に必要な理由） Friendship（信頼関係） → 違和感や問題を共有しやすくなり、早期発見につながる。

Inclusiveness（包括性） → 多様な人を受け入れ、孤立や見えにくいリスクを防ぐ。

Enthusiasm（積極性） → 主体的な関与が予防と改善を促進する。

Engagement（関与） → 状況にしっかり関わることで、小さな変化やリスクに気づきやすくなる。

Cooperation（協力） → チームで連携することで、適切かつ迅速な対応が可能となる。

今回の研修では、CISV の Risk Management に関する幅広い資料とポリシーを参照しながら、実務に必要な知識を体系的に学んだ。特に、U-14（Risk Manager の役割定義）、N-01（Risk Management 概要資料）を基礎とし、U シリーズ＝役割、N シリーズ＝概要、R シリーズ＝実務ルールという体系を理解することで、Risk Manager として継続的に学び続ける姿勢（Continuously Educate Yourself!）の重要性が強調された。

○ 研修で扱った主なルール・ポリシー・チェックリスト

Safeguarding Policy Social Media and Digital Policy R-07 Positive Behaviour R-15 Risk Management Overview Risk Management Checklist Supporting Documents Insurance Administrative Policies and Procedures Legal Form, Health & Behavior Form, Codes of Conduct Individual Support Needs Assessment ※資料は CISV Central から参照可能

○ Legal Form / Health Form / Codes of Conduct

今回の研修では、新たに「Individual Support Needs Assessment Form」が追加されたことが紹介された。これは、参加者一人ひとりが安全かつ安心して活動に参加できるよう、必要な配慮や支援内容を事前に整理し、関係者間で共有するための重要なツールである。

特に、Form 作成において「Disclose（正しく伝え共有すること）」の大切さが強調された。Panic Attack、Self harm、Suicide Ideation、Eating Disorder などのメンタルヘルスに関する課題や留意事項を、保護者が包み隠さず共有することが、安全と健康を守るために不可欠であると学んだ。

○ Risk Management Checklist

Risk Management Checklist は「チームのためのツール」であり、Risk Manager だけでなくキャンプ関係者全員で取り組むことが重要である。キャンプ計画の初期段階に活用でき、火災・水害・防災・飲食の安全などを網羅的に確認できる。

チェックは二段階で行われる。

- ・ 第一確認：プログラム開始 1 か月前までに実施し、会場やホストファミリー選定にも活用
- ・ 最終確認：プログラム開始後 3 日以内に実施し、運営準備の最終チェックとして活用

完成したフォームはチャプターで保管し、ナショナル協会へ共有する。必要に応じて Risk Manager がフォローアップを行う。

○ Measuring Risk

リスクは「発生確率」と「影響の大きさ」の組み合わせで評価される。研修では、はしごを使ったワークを通じて、リスクは単一ではなく複合的に捉える必要があることを学んだ。

○ Crisis Management（危機管理）

重大な事態が発生した際の対応について、ケーススタディを通して学習した。初期対応、報告、判断、外部機関との連携など、段階的な対応の重要性が確認された。

○ Risk Management in Digital World

デジタル環境でのリスクについて、Data Protection and Privacy Rights、CISV Safeguard Policy を参照しながら学んだ。

○ Insurance Coverage（保険）

N-02 Global Insurance Requirements をもとに、CISV の国際保険制度について理解を深めた。

- ・ CISV International は全プログラムを対象に賠償責任保険を提供（最大 100 万～1000 万ポンド）
- ・ 参加者・スタッフ・リーダーは旅行保険加入が必須
- ・ チャプターはサイト保険や役員賠償責任保険を整備
- ・ Travel Insurance Number：B0793NM2410436
- ・ 緊急時の連絡先：+44 1444 442204（日本語対応あり）

Risk Manager は番号と連絡先を控え、緊急時に備える必要がある。

○ Safer Recruitment（安全な人材選考）

・ Safeguarding Policy Appendix1 からチェックリストを参照 ・ Vetting Checks（Criminal / Suitable / Health & Behavior） ・ Selection はキャンプ関係者と協力して行う

ボランティアドライバー ・ 十分な保険加入（目安：10 万ドル） ・ 過去 5 年間事故がないこと ・ キャンプ中は 2 名以上確保

ホストファミリー ・ 予備の家庭も確保 ・ Host family Risk Management Checklist を活用 ・ LINE グループなどで連携する支部もある

リーダー途中帰国への備え ・ 補助リーダーの確保が理想 ・ 難しい場合は他支部や近隣国からの支援も検討

○ IRF (Incident Report Form)

IRF の手順をウェブサイトで確認し、問題発生時の記録・報告の重要性を再確認した。

○ Safeguarding Policy

Safeguarding は「大きい」が重要。子どもを危害から守るための方針であり、予防・早期発見・適切な対応を通じて安全な環境を確保する。

○ Social Media and Digital Safety Policy

SNS やオンライン活動における安全とプライバシーを守るための方針。透明性と適切な距離感が重要。

○ R-07 Positive Behaviour Policy

望ましい行動と対応方法を定めたポリシー。Forbidden Behaviour（禁止行動）と Inappropriate Behaviour（不適切行動）を区別し、段階的な対応を行う。

○ R-15 Procedure for Leaving or being Removed

参加者が離脱・除外される際の手順を定めたもの。安全とウェルビーイングを最優先に慎重に判断する。

以上が、本研修を通じて得られた主要な学びのまとめである。さらに深い内容や関連資料については、CISV Central 上で参照できるので、あわせて確認いただきたい。（坂田 綾）

【感想：National Risk Manager 矢澤 豊】

2026 年、インドのプネ（Pune）で行われた APRW。私は 3 月 27 日（金）の深夜に現地入り。そのため、歓迎パーティーに参加することはできなかった。

翌日、28 日（土）よりは、リスクマネジメント部会にて、Risk Management の certification を得るための、トレーニングを受ける。2023 年 2 月、久留米で Angie から受けたトレーニングの期限が今年末で切れることもあって、National Risk Manager としては参加は必須であった。トレーニングは APAC 内、各国の Risk Manager、また Risk Manager 候補が参加。Promotional Association も含め、約 7 カ国、17 名が参加していた。トレーニングのインストラクターは CISV USA より Stephanie Teichmann、フィリピンより Carlos、そしてインドネシアより Sandra、以上の 3 名。



トレーニングに先立ち、1 月末より懸念事項となっていた CISV International の UK Charity Commission への Self-reporting の概要について、説明があった。

初日のランチは、PACE 財団の理事、およびタイの NAR、Oil も同席して、Self-Reporting 後の APAC の方向性についての談義をおこなった。

トレーニング自体は、RM の概要（U-14 及び N-01 の基本書面）、そして safeguarding の基本方針（Social Media and Digital Safety Policy、R-07、R-15）に関する復習からスタート。続いて、プログラム

の準備期間における、RM 視点からの注意点（Recruitment、Camp Site、Host Family に関する checklist の確認）、および各種書式（Health/ Behaviour、Legal）を確認した。

初日の夜は、Self-reporting 以降、EMEA から意見集約を図っている、ベルギーの Geoffrey とのビデオ会議。ポルトガルの Totti、フランスの Benoit がビデオ参加。インドからは Rupa、Viral、そして Pranjal が同席。各地域（Americas、EMEA、APAC）が、UK Charity Commission に任命された Emma Moody 及び International Office との交渉、会議に参加する代表を選出する方向で合意した。

2 日目は、午前中の遠足に続き、午後から危機管理（crisis response management）について。そしてデジタル、ネット社会における risk management、そして CISV の保険（N-02）について学んだ。



3 日目は、午前のセッションは APAC の NAR のセッションに出向き、Self-reporting 後の APAC の方向性に関するプレゼンテーションと Q&A セッションを行う。その後、RM に戻り、ホストファミリー環境における、リスクマネジメント。午後からは IRF に関する RM セッションでの説明、そして保護者からのクレームへの対応シミュレーションのあと、APAC の NAR との合同セッションで、2025 年プログラムに関する CISV の RM レポート（辞任した RM Lead の Heather が提出したもの）の説明が、Stephanie からなされた。

4 日目は、当時 IO から提示されていた、15 項目の RM 強化についてのディスカッションから始まり、R-07（Positive Behaviour Policy）の内容確認から、R-15 の下におけるプログラム参加者の中途送還に関して、議論と経験談の交換がなされた。その後、safeguarding に関するセッション、Village との合同セッションの後、最後にまとめのセッションがもたれ、certification に関しては、現在 IO との間で折衝中なので、後日確定するとの旨が告げられた。

翌日、4 月 1 日（水）の夕方、ホテルをたち、プネの空港へ。深夜デリー空港で乗り換え、翌 4 月 2 日（木）、成田空港に到着、帰国した。

【感想：広報プロモーション部会長 広報担当理事 坂田 綾】

APRW に参加者として参加するのは、コロナ明け初めて、5 年以上振りとなりました。

インドは 12 年振りに再訪。前回はムンバイで開催されたインド 60 周年記念パーティーへの参加でした。APRW & JASPARC2026 は CISV 創立 75 周年記念の年にあたり、記念式典を含め、全体として華やかな雰囲気の中で開催となりました。

本大会は、ムンバイから内陸に 160 キロのプネという町で開催されました。一般的にはあまり知られておらず、アクセスも容易とはいえないプネでなぜ開催するのか、当初は少し疑問に感じていましたが、到着・滞在してみると、その魅力をすぐに実感しました。標高約 600m のプネは、昼の日差しは強く 30 度以上になるものの、日陰はさわやかで、朝夕は 20 度程度と非常に過ごしやすい町でした。私はバンコクからプネに到着しましたが、空港から出たとき、蒸し暑いバンコクとの気候の違いに驚きました。また、街全体も比較的安



全で、人々は穏やかかつ親しみやすく、インド特有の明るく友好的な雰囲気を存分に感じることができました。



私はリスクマネジメントワークショップに参加しました。メイントレーナーの Stephanie のお話は大変興味深く、今後に活かせる多くの学びを得ることができました。(ワークショップ報告は別途作成)

本プログラムは、日本とインドの共同開催という形で実施されましたが、タイからのスタッフの皆様にも多大なるご協力をいただきました。多くのご尽力とご支援のもと、APRW および JAPSARC を開催いただきましたことに、心より御礼申し上げます。

CISV International からの通知で、20 歳以下の参加制限が設けられるなど、混乱が多い中での開催ではありましたが、地域の仲間と共に、本年度のプログラムはこれからの CISV について、議論を深め、協力関係を構築する機会に恵まれたことは大変有意義でした。

本年度プログラムが無事開催できるよう、各国各支部で準備を進めてまいります。



【感想：九州支部 中島貴子】

今回の APRW が CISV の国際プログラムへの初めての参加となる私にとって、事前には不安もありましたが、みなさまの温かいサポートのおかげで無事に最後まで走りきることができました。現地での学びや交流を通して、CISV の広がりや温かさを肌で感じる貴重な機会となりました。

Risk Manager のセッションを受けたことは、私にとって非常に大きな学びでした。講義の中で特に印象に残ったのは、Risk Management の中心が「Select, Train, Support Leaders and Staff」であるという点です。安全管理は、問題が起きたときに対応するだけではなく、適切な人材選考、事前の教育、そしてキャンプ中の継続的なサポートによって“問題を未然に防ぐ仕組み”であることを強く理解しました。これまで文書やオンラインで学んでいた内容が、現場の具体的な説明や事例によって立体的に結びつき、「安全を守る」という言葉の重みを改めて実感しました。



また、今回の APRW 参加は学ぶだけでなく、アジア太平洋地域の CISV メンバーと直接つながる特別な経験でもありました。ヨガやダンス、食事などインドの文化に触れられたことも私にとって大きな財産です。APRW で得た学びと、皆様からいただいた温かい支えを忘れず、今後の支部活動やプログラム運営に確実に活かしていきたいと強く感じています。

4-4. TTT (Train The Trainers)

【内容と報告】

私は TTT (Train the trainer workshop) に参加した。参加者はベトナム 3 人、タイ 2 人、インド 2 人、モンゴル 1 人、フィリピン 1 人、日本 1 人、講師のフィリピンの先生 2 人だった。参加者の多くは母であり、キャンプに送る親目線の立場で意見を聞くこともできた。4 日間の中でリスクマネジメントやファシリテーションのポイント、フィードバックやプランニングのコツを学んだ。TTT のメンバーはみんな優しくて面白くて、トレーニングだけど何よりも楽しく仲良くやっていた。発言や質問の時は、私はどこかそのタイミングが分からなかったり、何よりもすぐに英語で話したり、人前で発表したりするのにすごく勇気が必要だったのでみんなの積極性に改めて圧倒された。3 日目のプレゼンテーションパーティーでは、「DIVERSITY」というテーマで「How Worlds Changed my World」というテーマで 3 分間の発表をした。テーマや発表内容に悩んでいたときに個別で先生に相談したら、「なぜ言語を勉強したり教えたりしたいと思っているのか、多様性と繋げて話すといいよ」とアドバイスをもらい、スライドを作った。4 日目は、Participants deliver training で VL のリーダー教育として 50 分間プランニングとハンドリングをした。チームメンバーのインドとベトナムの 2 人の経験値と短時間の打ち合わせで上手く回せているところに驚いた。日本だと時間を掛けて夜遅くまで準備をすると思うが、ある意味「なんとかなるさ〜！」くらいのマインドで取り組むと楽しく新しい発想も出てきていいのかなと思った。もっと気楽にリードできることを実感した時間だった。まだまだ CISV の経験も浅く知らないことも多いが、キャンプや TTT での学びを九州支部や 4 支部で活かしていけたらいいと思う。(村尾京香)

		March 28	March 29	March 30	March 31
Breakfast	6:30 8:30				
Session 1	9:00 10:30	Intro and Team Building Training Space Intro through Storytelling	Excursion 8:30-12:30	Recap+ energiser Group Development	Participants deliver training
Coffee Break	10:30 10:45				
Session 2	10:45 12:15	Introductions through storytelling (part 2) Training obstacles Expectations and contract		Recap + Energizer Facilitation Tips	Participants deliver training
Lunch	12:15 13:30				
Session 3	13:30 15:00	Self-awareness and self-development	Recap + Energizer Planning for entire training Instructions for Presentation Party	Recap + Energizer Co-facilitation	Participants deliver training
Coffee Break	15:00 15:15				
Session 4	15:15 16:45	CISV 101 / Peace Education	Recap+ energiser Communicating CISV & CISV International	Recap+ energiser Feedback	Self-evaluation self-reflection and action planning PDPEF
Coffee Break	16:45 17:00				
Session 5	17:00 18:30	Facilitating Learning	Recap + Energizer Risk Management	Presentation Party	Wrap Up
Dinner	18:30 20:00				

*TTT スケジュール

【感想：九州支部 村尾京香】



初めての参加でどんな雰囲気かあまりイメージができていなかったのですが、CISV の歴史を振り返ったり、どのような思いでみんなが CISV に貢献しているか聞いたり、エナジャイザーのパワーで元気を貰ったり、常に高い熱量とエネルギーで溢れていた。

インドで開催されたこともあり、インドのご飯や景色、空き時間にはダンスを体験できたことも良かった。朝のヨガも参加したり、ルームメイトのインドネシア人と夜にお話したりする時間も非日常的な時間だった。

私は今年の 8 月から半年間インドネシアに滞在する予定だが、ジャカルタに住んでいるインドネシア人のみんなと仲良くなれて、8 月に会う約束や CISV のイベントに招待して貰えることになった。日本だけでなく海外の支部がどのような感じで CISV をしているのか見たり、現地で聞いたりする楽しみもできた。

初日の Welcome Party の勢いから、最終日の Farewell Party の各国のパフォーマンスまで本当に個性と特色でそれぞれにしか出せない色があり、刺激的な毎日だった。最後には仲良くなった方とお土産交換をして、日本から持って行ったお菓子やステッカーを渡し、インドネシアのバティックやコーヒー、ベトナムのノンなどを貰った。

そして、今回の経験を通してやっぱり私は「教育」や「言語」、



「文化」に関わっている時間が好きだということを再認識し、これからも貢献していきたいと思った。来年は、YM のリーダーや九州のスタッフ、国際スタッフなど 2 つくらいキャンプに参加してこの経験を活かしたい！！そのためにも、英語や今足りていないスキルを伸ばしていきたい。



4-5. Village プログラム

【内容と報告】

1. CISV とは何か

CISV は、異文化間の友情・協力・理解を通して平和を学ぶ国際教育団体である、という導入のセッションです。理念として「より公正で平和な世界を、アクティブ・グローバル・シティズンシップによって実現する」ことが示され、創設者ドリス・アレン、1950 年の設立、1951 年の最初の Village プログラムなど、CISV の歴史的背景も紹介されています。

2. CISV の組織と Village プログラムの基本

CISV の教育目標と、Village プログラムの基本構造を説明するセッションです。Village は 11 歳向けの 28 日間の国際キャンプで、10～12 か国から子どもたちが参加し、各国から男女 2 名ずつとリーダー 1 名が派遣されます。異文化理解、協力、共同生活を通して学ぶことが目的で、安全で楽しい環境の中で生涯続く学びや友情を得ることが重視されています。

3. MyCISV と参加準備

参加者が事前に知っておくべき実務面を扱うセッション。CISV ID の意味、MyCISV でのアカウント確認方法、各種提出書類について説明されています。大人向け・子ども向けそれぞれに、行動規範、法的同意書、健康フォームなどが必要であり、プログラム参加に向けた準備の流れを把握する内容になっている。

4. リーダーシップとファシリテーション

リーダーやスタッフがどのように場を支えるかを学ぶセッションです。自分のリーダーシップのあり方を考

え、「ファシリテーターとは何か」「難しい状況にどう向き合うか」が扱われます。また、グループの成長段階（Forming, Storming, Norming, Performing, Adjourning）に応じて、名前ゲーム、信頼ゲーム、協力ゲーム、振り返り活動などを使い分ける考え方が示されている。

5. Peace Education の考え方

CISV の教育の中心にある Peace Education の枠組みを説明するセッション。参加者が「自分自身・他者・文化・世界への気づき」「責任あるコミュニティ参加」「社会をよりよくする行動」「平和・非暴力・社会正義の理解」を育てることが目標とされています。また、学びを awareness・attitude・skill・knowledge の観点で捉える指標も示されている。

6. 教育テーマと学びの方法

CISV が扱う教育内容と、学習の進め方を説明するセッション。主な教育内容として、持続可能な開発、人権、多様性、紛争と解決が挙げられています。また、CISV では講義型ではなく「体験を通して学ぶ」Experiential Learning を重視しており、Do → Reflect → Generalize → Apply という流れで、体験を現実社会の課題や日常の行動につなげることが紹介されている。

7. 活動計画と RESPECT

年齢やキャンプの段階に合わせて活動を設計すること、そして活動運営に必要な姿勢を確認するセッション。活動はテンプレートに沿って計画し、参加者の発達段階やプログラムの進み具合を考慮する必要があります。あわせて、RESPECT を構成する要素として、相手を認めること、共感すること、自分をコントロールすること、個人の空間を尊重すること、信頼を築くこと、他者を励ますこと、皆が平等であると理解することが示されていた。

8. リスクマネジメント

安全管理の基本を学ぶセッションです。リスクとは「悪いことが起こる可能性」であり、その起こりやすさと影響の大きさを判断することが説明されている。活動内容、指導者、環境、参加者の状態、時間帯、使用する道具など多面的に確認し、事前準備を重視してリスクを減らすことが求められます。加えて、子どもの保護や、事故・問題発生時の報告プロセス、Incident Report Form の重要性も扱われていた。

9. 振り返りと評価

活動後にどのように学びを深め、今後に生かすかを扱うセッション。振り返りでは、活動中に何を見て、どう感じ、どう行動したかを確認する問いが用意されています。さらに、その経験をテーマや現実社会の課題と結びつける「一般化」の問いや、日常生活でどう活かすかを考える「応用」の問いも紹介されています。ファシリテーター向けには、教育目標の達成度、年齢適合性、参加の偏り、改善点などを評価する視点も示されていた。

10. PDPEF と教育評価の実務

PDPEF（Programme Director's Planning and Evaluation Form）という、プログラムの計画と評価のための公式フォームについて説明するセッション。管理、教育、実務、リスク管理、メディアとコミュニティ活動など複数の項目から成り、その中でも Section 2 は教育内容の計画と評価において全期間を通して使う重要な部分とされています。スタッフやリーダーだけでなく、年齢によっては参加者自身も評価に関わること

が想定されていた。

11. コミュニケーションと参考資料

最後に、コミュニケーションに関する案内と、参考資料・リソースへのリンクが示されています。研修後も参照できる教材やガイドラインが共有されており、参加者が実際の運営や準備に活かせるようになっていた。

まとめ

CISV の理念理解 → Village 運営の基本 → リーダーシップと教育手法 → 安全管理 → 振り返りと評価という順で構成されており、参加者が Village プログラムを教育的かつ安全に運営するための全体像を学ぶ内容になっていた。(菅原瑞季)

【感想：関西支部 支部リスクマネージャー ビレッジ部会長 野上良治】

今回の APRW は、参加者として 3 回目の参加で、ビレッジのトレーニングを受講しました。

参加した理由は、ビレッジ部会長であることと、ビレッジトレーニングの中で JC のキャンプアウトをなくす方法について相談したいと考えていたためです。しかし、トレーナーに相談したところ、「それは難しいのではないか」という反応で、十分に議論することができず残念でした。もう少ししっかり相談すればよかったと心残りに感じています。

トレーニングの内容はどれも有意義でしたが、その中でも一番印象に残ったセッションを紹介します。

まずグループに分かれ、メンバー同士でリユニオン旅行に行くという設定が与えられました。そして、

- どこへ行くか
- 何を目的とするか
- 旅行を通して何を感じたか

を発表するという内容でした。



私のグループは 3 人で、1 人が「これを歌にして発表しよう」と提案しました。話し合った結果、「行き先はノルウェーで、オーロラを見に行く」という内容を生成 AI に入力すると、あっという間に歌詞を作ってくれました。さらに、もう 1 人が少し悩みながらも 2 分ほどで曲を作ってくれました。その後は 3 人で歌の練習を重ね、発表ではその歌を披露しました。会場からはアンコールもいただき、とても新鮮で楽しい経験になりました。

また、トレーニングそのものではありませんが、簡単で楽しいエナジャイザーの一つ教えてもらいました。ぜひ今後、どこかで皆さんともやってみたいと思っています。

今回も他国の CISVer とたくさん知り合うことができましたし、日本からの参加者も初めてお会いする方が多く、新たな交流ができてよかったです。フェアウェルパーティーでは浴衣を着てダンスを披露し、そのための練習も含めて楽しい思い出になりました。

帰国前には少し観光もでき、ホテルから空港までのタクシーの中でも、交通の激しさや街の活気、人々のエネルギーを感じることができました。

APRW は、CISV についての知識を深められるだけでなく、多くの仲間と出会い、その土地の文化や雰囲気にも触れられる、とてもおすすめのイベントです。



【感想：関西支部 菅原瑞季】

初めて APRW に参加しました。私自身 2024 年の YM ドイツリーダー経験から、cisv をもっと深く理解したい、ビレッジプログラムのリーダーとしての振る舞いが予想がつかないため学びたいという理由から参加を希望しました。結果として自信を持ってトレーニングを終えることができました。日本で学んでいた基礎知識の反復もあり、今回は振り返りになりつつも、加えて各国リーダーの経験をデモンストレーション形式でプレゼンする会が特に学びになりました。教育業を生業にしている方や、特にインド cisver の表現力や人間性は勉強になる事が多かったです。例えば、キッズが感情に支配されている間は、その感情が収まるのを数分静観することを心掛けることや、わかりやすい言葉でいかに引きつけながら集中力を保たせるかなど工夫の数々に感心しました。



また、全体を通しての感想は、アジアの cisver と出会う事が初めてだったため、比較的近い文化圏で cisv を大切なライフワークとしている人たちと交流できたことはとても良い機会でした。特に私は cisv India の方々との繋がりが深くなり嬉しかったです。彼らはおもてなしの心づかいが特に強く、来てくれたみんなに良い思いをして欲しいという気持ちが強く伝わり、その暖かさに癒されました。

元々子供の頃からの国際平和教育に関心を持って入った団体でしたが、大人同士の cisver での交流は他に大変な体験となることを良い意味で予想していませんでした。キャンプやまたどこかの機会で会える日が楽しみです。

今回学んだことを関西支部にも還元できるように努めてまいります。今回 APRW 派遣にご尽力くださった皆さまに感謝いたします。ありがとうございました。

【感想：東海支部 牧 穂乃花】



はじめに

この度 2026 年 3 月 27 日- 4 月 1 日にインドで開催されました APRW の VL トレーニングに参加させていただきました。今まで JB として CISV に携わらせていただいていたが、今回初めて JASPARC を卒業し、Village プログラムについてしっかり学ぶ良い機会となりました。

セッション全体について

この VL トレーニングでは、まずはじめに簡単な自己紹介・ネームゲームをし、「CISV とは何か」という基本概念の根本理解から始まりました。異文化理解や協力といった価値観を、ただ理念とするだけでなく、プログラムを通して実践的に身に付けられるように設計されていることを学びました。

その後は、My CISV への登録方法や参加する上で必要な Forms などのプログラムへの参加準備説明や Peace Education の考え方(Awareness, Attitude, Skill, Knowledge)についてのセッションが行われました。

基本的な説明が終わると、少し Village についてももう少し掘り下げるセッションへと移行し、リーダーシップやファシリテーション、リスクマネジメント (Incident Report Form も含む)、PDPEF のような運営面について詳細に扱われており、子供に楽しんでもらうのはもちろん、安全で効果的なプログラムを実現するための具体的な視点が学べる構成となっていたと感じます。さらに、その中でもグループの成長段階 (Forming, Storming, Norming, Performing, Adjourning) に応じたアクティビティの選定や、アクティビティをする上で必要な DrGA(Do, Reflection, Generalize, Apply)の学習サイクルについて、今回のトレーニング参加者が実際にアクティビティを作って披露するなどの実践的に応用する機会があったため、座学だけではなく Learning by Doing ができて楽しく学べました。

個人的に印象に残っているセッションについて

この中でも私の中で一番印象に残っているセッションは参加者が二つのグループにわけられ、それぞれ 11 歳を対象としたアクティビティの企画・実施を行いました。各グループは相互に参加者役となり、実践的に学ぶ形式で進められました。

私たちのグループでは、「Sustainable Development」をテーマにアクティビティを企画しました。具体的には、部屋内に設置されたごみを収集し、それらをマーケットにおいて様々な物と交換できるという仕組みを設定し、交換によって得た材料を用いて「国王へのプレゼント」を制作するという流れで活動を構成しました。この自分たちで企画したアクティビティを通して、限られた時間内で活動を円滑にわかりやすく運営することのむずかしさを実感しました。また、活動を単なる楽しいゲームとするのではなく、テーマの本質をどのように参加者に伝えるかについて検討することにもむずかしさを感じました。

また、他グループのアクティビティに参加し、参加者になることで、説明をする際に、対象年齢に合わせて、いかに内容を簡潔かつ分かりやすく伝えるかの重要性を再度感じさせられました。情報量だけでなく伝



え方そのものも工夫する必要があり、簡単な単語を選ぶなどの言葉選びや進め方によって理解度が大きく左右されることに気づかされました。

さいごに

様々な国からの経験がたくさんある参加者のみなさんに囲まれながら、たくさんの影響を受け、たくさんの知識を与えてくださったこの機会を活かし、まずは今回の VL のスタッフ、さらにはこれからの活動も頑張りたいです。ありがとうございました。

4-6. JASPARC

【感想：Sr.NJR 西山世里奈】

=挑戦の多い JASPARC=

コロナがあけて、これまでずっと大人数で頑張ってきた JASPARC ですが、CISV の決定により、参加者が 21 名となってしまった。Asia Pacific の JB は、若い世代が多い国が複数あり、かなり痛手である。APJB TEAM や各国の JB が意見を上げたが、それは通らなかった。今回の JASPARC で一番印象に残っていることは、今後いつまで続くかわからない参加者の年齢制限に関して、泣きながら話したことだ。

また人数が少ない分、JB とたくさん話すことができた。すでに知り合いがいる人は、ずっと同じ人と固まっていたはいけないと私は考えているので、いろんな人と話した。新しい人も楽しめていたと感じる。自国の Jr.NJR と一緒に JASPARC に参加し、こんなに同じ内容を共有することは私にとってはかなり嬉しいことだった。わからない中身を一緒に話し合い、知っていることを共有する。そこでアイディアが生まれて、それを 2 人でぶつけ合い、練り合わせていく。この集中できた環境がとても珍しいと思った。

今回、APJB TEAM の選挙に出馬した。初めての対面の質問回答で少し緊張したが、答えられた。しかしやはり自分の中でまだ APJB 全体が見えてないと悔しい思いもした。ほかの地域の JB と比べて APJB の強みは、コミュニケーションと文化差だと思う。文化が違うことで互いを最初からリスペクトできて、その中で共通のものを見つけられる。もっと APJB 内で、コミュニケーションをとれる方法を自分は模索したいと思う。

この行事を通じて、またほかの要因もあり、仕事におけるコミュニケーションの重要性を痛感した。そして自分に部下ができることの難しさも感じた。4 回も参加しても毎回環境やテーマが違ったり、今回は全体的に難しいほうだったと思う。一緒に行ってくれた日本の JB のおかげでさみしくもなかったし、大変感謝している。



【感想：Jr.NJR 平井奏衣】

=JASPARC に初めて参加して=

私は、3月27日から4月1日までインドのプネで行われたJASPARCに参加しました。今回のJASPARCは私にとって初めての経験であったため、セッションについていくことができるのか、また環境や雰囲気になじめるのかという不安を感じながら出発しました。

実際にキャンプサイトに到着し、JBの輪に入ったとき、TEAとは全く異なる雰囲気を感じました。今回のJASPARCは年齢制限のもとで行われたキャンプであったため、経験豊富なJBのみが集まっており、正直なところ簡単になじめる雰囲気ではありませんでした。そのため、環境に慣れるまでに少し苦戦しました。また、セッションのレベルも高く、分からない単語が飛び交うことも多かったため、自分自身の国際JB活動に対する知識不足に気づくことができました。



私がインドで過ごした1週間の中で最も印象に残っているセッションは、Regional Conferenceです。これは参加JB全員が会議に参加し、APJBで発生している問題について話し合うものです。このConferenceを通して、他国のJBがどれほどの熱意を持って活動に取り組んでいるのか、またJBをより良くしていくために何を考えているのかといった意見を共有することができ、自分のモチベーション向上につながる貴重な機会となりました。

私はNJRという役割を与えていただいていたものの、実際に何をすべきか、自分が何をしたいのかが明確ではありませんでした。しかし、この会議を通して、自分が果たすべき役割や目指したい方向性について、より明確な目標を見つけることができたと感じています。



また、現在各国で起きている課題について話し合うセッションも非常に印象に残っています。各国が抱えている問題は、人手不足や資金不足、モチベーションの低下などさまざまでした。しかし、APJB全体を見渡してみると、すべての国に共通する課題は少なく、日本では人手不足が問題である一方、フィリピンでは人が多すぎてまとまりにくいといったように、それぞれ異なる状況にあります。こうした違いがあるからこそ、互いに助け合うことで課題を解決できる可能性があると感じました。

現状を知った今、大切なのは、NJRである自分が各国のNJRとどのようにコミュニケーションを取り、得たアイデアをどのように活かしていくかだと考えています。JASPARCを終えた今、今後は積極性を意識しながら活動していきたいと感じています。

最後に、今回のJASPARCへの参加を通して、自分がなぜJB活動をしているのか、そして今後何をしたいのかという根本的なモチベーションや行動指針を見つけることができました。この経験を活かし、これからの活動にもより一層力を入れて取り組んでいきたいと考えています。

【感想：関東支部 古元柚希】

今回、2026年度のJASPRCに参加した古元柚希です。このJASPRCでたくさんのことを学ばせていただきました。その中からいくつか述べたいと思います。自分はVillage以来、初めての国際行事でした。あの時の自分は英語力が足りずコミュニケーションのところで多くの困難がありました。それからその思い出が悔しく、英語を勉強したきっかけになりました。そのため今回のJASPARCは自分にとってどれだけ英語力が上がったのかを試す機会でした。日常会話は、以前と比べて通じるようになったと感じました。しかし、セッションの際にはまだ理解できないことも多く、課題が残っていると感じました。他の国の参加者と同じレベルで議論できるようになり、もっと自分の意見を伝えたいと思いました。



今回のJASPARCには、約2日遅れて参加しました。みんなよりキャンペーンが遅れたこともあり少しみんなと仲良くなれるか不安な気持ちがありました。しかし自分がキャンペーンをした参加した最初の朝たくさんの人が話しかけてくれてすぐみんなと仲良くなれました。そして自分が以前から感じていたCISV JAPANの人員不足についてということを相談した際はみんなが真剣に考えてくれてたくさんのアドバイスをもらうことができました。最後の日はもっとここでみんな話したいと思えました。CISVは毎回新しい気づきを与えてくれる、自分にとってとても楽しく学べる場所だと感じました。

